

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-72

学校名・団体名	亀山市立亀山西小学校
HPアドレス	http://www.kameyama-mie.jp/~kblog/nishi/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	咲かせよう！JASMINEの花 ～地域とともに～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>児童の学習や生活に対する意識・考え方は、保護者の教育や生活に対する多様な考え方によるところが大きく、地域の育成機能が十分に発揮しきれていないところに起因していると考えられる。健全な社会性、規範意識を育成するために、家庭や地域の実情の把握に努め、学校・家庭・地域が三位一体となり学習面・生活面において方策を講じ、それぞれの教育力の向上を図る必要がある。そこで、本校において「子どもの学ぶ力育成」、「学校と家庭・地域の連携推進」を柱に校区の教育資源を最大に生かした教育の取り組みを展開していく。</p>	

本校は亀山市の中心部に位置し、近隣に主な公共施設がある。また、豊かな自然環境にも恵まれ、多様な学習活動を可能としている。校区内の5つのコミュニティは、祭りや地区の運動会など児童が参加できる行事も多くあり、児童登下校の安全見守り「西小SOS」として多くの方々が協力してくださっている。多方面から子ども達の育成に関わっていただき、連携が成り立っている。

そんな中、本年度、特色ある学校づくりとして下記の内容で取り組んだ。

① 子どもの学ぶ力づくり (すべての子どもの学びを支える多文化共生の視点にたった教育の推進)

- ・「表現したくなる力」を育てる授業の構築(算数科を中心に)と基礎学力向上の推進
- ・特別支援教育も包括した多文化共生教育の推進

② 学校と家庭・地域連携の推進 (校区の教育資源を最大に生かした教育の推進)

- ・「JASMINE (ジャスミン) 運動」(西小子ども宣言)
J:時間を守ろう A:挨拶をしよう S:掃除をがんばろう MINE:みんなを大切にしよう
の展開・発信により、地域風土を醸成し、地域とともに、「開かれた学校」を築く。
- ・家庭、地域との協働活動、地域の教育資源(ひと・もの・こと)を生かした授業の実施

○実践1「自然のもので工作をしよう」(11月9日)

この体験は、たくさんの自然の材料、普段は使えないような道具が十分に準備・保障されており、スタッフの方に教えていただけることが魅力である。担任も実際に体験してみた上で「ハーブリース」「ハーブアレンジ」「フォトフレーム」「ミニチュアクラフト」の中からそれぞれ好きなものを選ぶことにした。そして事前に作品の実物を子どもたちに見せて作り方を説明し、何を作るかを決めておいた。

- 3 -

作品は写真で事前学習のときにも紹介したが、工房に行ってみるとたくさんの作品が並べられており、そこから作りたいものをイメージすることもできた。取り組み方には個人差があったが、予想以上に集中してイメージを上げていき、その子らしい作品ができたことがたいへんよかった。今後自分の身のまわりの木の実などを使った作品を作るときに今回の体験がいかされるとよいと思う。子どもたちの中にはスタッフの方に自分が作りたいもののイメージを伝えて、アドバイスをもらう姿も見られた。多くの人との関わりを持つことが出来たのである。



○実践2「さをり織り」(11月16日~27日)

毎年「工房ゆう」の方に織り機を貸していただき、織り方を教えていただいている。縦糸を張っていただいた織り機で、自分で選んだ好きな色の糸をシャトルに巻き取り織っていく。手と足を使いながら織るのではじめは「踏んで、通して…」と声かけが必要だが、だんだんリズムよく織っていけるようになる。毎年しているので、体が動きを覚えていてとても速く織れる子もいる。偶然できた模様や失敗と思えるような糸の通し方も世界のひとつだけの作品となっていくのがさをり織りのよいところである。今年も自分たちだけのすてきな布が完成させることができた。継続することで、積み上げが出来てきている。



○実践3「石釜を使った焼き芋づくり」

(5月~10月さつまいも栽培 10月30日収穫 11月20日焼き芋)

学校の畑で育てて10月に収穫したさつまいもの調理について話し合ったときに、「焼き芋してみたい!」という声が多かった。これまでは家庭科室での調理ばかりだったので、外で作れるということがとても魅力だったようだ。ただ、街中なので、煙をあまり出さない配慮が必要であるため、石釜を使うことにした。

当日、高学年は、教頭先生に教えていただきながら、煉瓦を積み石釜を造るところから活動を始め、低学年はさつまいもをきれいに洗った。ひまわり教室前の畑に石釜ができると、いもをならべ、炭火でじっくりと火を通した。いいにおいがしてくると、「ほんとにこれで焼けるんや。すごい。」と納得し、驚いていた。教室で学習している間にほくほくに焼きあがった焼き芋をほおぼる子どもたちは大満足。新しい方法を覚えることができた貴重な体験となった。



○実践4「花づくり」(年間を通して)

全校で花を育てている。種をまき、毎日の水やりを始め細かな世話をすることにより、美しい花がたくさん咲くことを知り、生き物に対する優しさや慈しみの心が育つ。このことは日常生活においても、互いを思いやる心の育成につながるものと考えている。また、地域の方々とのつながりを大切にしたい学校づくりを目指しており、地域のコミュニティに花のプランターを届ける活動は定着してきた。地域の方々も楽しみにしてくださっている。外国につながる子どもたちと言葉や文化の壁を越えて、共に花づくりに取り組む意義は大きく、子ども同士や地域の方との関わりを深める絶好の機会とすることができる。また、花づくりは、特別な支援を要する子どもたちも取り組みやすく、どの子にとっても豊かな情操の育成に役立てることができる活動である。



<まとめ> 恵まれた地域の教育資源ともいえる「ひと・もの・こと」を生かした取り組みを実践してきた。中でも、特別支援教育において、地域の力は様々な体験と経験を可能にしてくださった。そして、その取り組みは大きな効果となって子ども達の成長へとつながっている。物を作ることを通して、人とのつながりを作ることが出来た。